

普及活動情勢報告（平成 31 年 1 月分）

中央東農業振興センター嶺北農業改良普及所

来年度の栽培にむけて ～「土佐甘とう」反省会～



初めての反省会

12 月 20 日、大豊町で甘長トウガラシの反省会が開催され、生産者 6 人が参加しました。

普及所は今年の気象概要、問題となった病害虫や生理障害への対策について指導し、次年度から取り組む GAP について説明しました。

生産者からは、「今年度は生理障害で悩まされた。次作は会で紹介された pF メーターや遮熱資材の利用を検討したい」という声が聞かれました。

次年度には全生産者の規模拡大と 5 戸の新規参加が予定されており、さらなる栽培技術の向上が求められます。

普及所は、JA と協力しながら生産者が農業で生活ができる所得を確保できるよう、収量増加に向けて支援していきます。

本山町の農地を守っていくには？ ～高角集落への個別説明会～



農業公社からの説明

12 月 28 日、本山町町高角集会所で農地を守る仕組みづくりについての個別集落説明会が開催され、高角集落の 11 人が参加しました。

本山町農業公社が、多面的機能支払制度を活用して本山町全体で新たな農地維持対策に取り組むことを説明しました。

普及所からも、高齢化が進む中で新たな体制が必要なことを伝えました。以前の説明会では、新しい体制に不安を感じていた人も今回の説明を聞き「良い制度に思えてきた」といった声が聞かれ、制度への理解が深まりました。

今後も普及所は、交流会の開催を通して、本山町の農地を守るための新しい体制整備を支援していきます。

耕作放棄田を優良園地として活用 ～ユズの就農支援～



ユズ拡大の現地指導

1 月 9 日、大豊町柚木で就農希望者を対象に、ユズの栽培について指導しました。

対象者は「実家にある放棄田でユズを栽培したい」という意向で、現地は軽四トラックが横付けでき、運搬車が入る好条件で、既に雑草を除去し、耕うんしていました。

苗木の入手から幼木管理、補助事業の申請方法等を指導したところ、栽培面積は当初予定していた 10a から 20a に拡大することになりました。今後、さらに面積を拡大する意向があり、本人のやる気も十分に感じられました。

産地では担い手確保の一環として、放棄田を活用した青果生産を推進しており、広く情報提供してきました。こうした取組の成果があがり、JA 園芸部柚子部員からの紹介で栽培面積を増加させることができました。今後、ユズの経営が成功するよう、重点的に指導していきます。

ブランド米「土佐天空の郷」の更なる飛躍を目指して ～本山町特産品ブランド化推進協議会講演会～



熱弁を振るう普及員

1月11日、本山町特産品ブランド化推進協議会は、本山町プラチナセンターにて、農業公社、生産者、役場など計31人が参加して、「栽培方法と品質・食味の関係」をテーマにした講演会を開催しました。

普及所からは、平成30年産土佐天空の郷の成績を報告するとともに、本年度から導入している水田センサーの活用事例として、「出穂後の積算温度を用いた‘にこまる’の収穫適期指標」「成績上位者の水管理」について紹介しました。

参加者からは、「今まで、籾の熟れ具合など目視で判断していたが、新たな判断指標が出来て参考になる」「このような取組がブランド米の底上げにつながれば」といった期待の声が聞かれました。

次作では普及所は、指標を活用して収穫適期を情報提供するなど、ブランド米の品質・食味向上に向けて支援していきます。

次年度の出荷に向けて ～JA高知県れいほく花卉部会総会～



次年度の出荷計画を協議

1月17日、JA高知県れいほく花卉部会はJA高知県れいほく支所で総会を開催し、部会員4戸・7人が参加しました。会では、部会員が本年度の反省事項や次年度に向けた改善事項を報告するとともに、出荷や部会活動について次年度の計画を協議しました。

普及所は、土壌還元消毒の実証結果や定期的に全ほ場を土壌診断した結果などを報告しました。

部会員からは、「土壌還元消毒の結果は不十分であったが、今後も土壌病害対策を検討する必要がある」「定期的な土壌診断で栽培中の硝酸態窒素の変化が良く分かった」などの声がありました。

普及所は、今後も部会活動を支援するとともに、実証ほの設置等を通じて課題解決を図っていきます。

健全な農家経営を目指して ～はちきん農業大学第6回嶺北地域講座～



演習を行う受講者

1月17日、普及所ではちきん農業大学第6回嶺北地域講座を開催し、女性農業者6人が受講しました。

普及所職員が講師となり、貸借対照表の見方、複合経営の部門・品目別の経営分析、農家経営について演習を交えて説明しました。

女性農業者からは「手元に残るお金等農家経営の見方が理解できた」などの意見が出され、簿記記帳を活かし、健全な農家経営を目指す大切さが理解されました。

今後も普及所は、女性農業者のスキルアップを目指して支援していきます。

まずは作付け前の施肥指導から ～土壌分析結果を検討～



若手営農指導員へ
土づくりについて説明

1月21日、普及所でJAれいほく営農経済センターの若手営農指導員2人を対象に、土壌分析結果から基肥の施用量を決定するための勉強会を開催しました。

雨よけハウスでは、連作によって塩類濃度が高いほ場が多くなっています。EC値が高いほ場では基肥量を減らし、腐植含量の少ないほ場では堆肥や刈草等の投入による土づくりを進めることを確認しました。

普及所はJA営農指導員と連携し、安定した収量を確保するための施肥管理を推進します。

新たな担い手確保のため ～指導農業士との意見交換会～



活発に議論する参加者

1月22日、土佐町役場で新規認定指導農業士、土佐町、JA高知県、普及所の計11人が出席し、意見交換会を開催しました。

普及所は、米ナスで新たに認定された指導農業士から意見交換したいと相談を受け、会の開催準備、当日の運営や就農支援制度などを情報提供しました。

会議では、嶺北地域にどのようにして担い手を呼び込むか協議し、就農へのきっかけ作りとして、小学生を対象にした出前授業を開催し、農業の魅力を伝えていくなどの意見が出されました。

新たに指導農業士が2人確保できたことで、新規就農者の受入体制は整備されつつあります。普及所は、関係機関と連携し、嶺北地域の担い手確保に向けて支援していきます。